

有限会社盛金製作所

代表取締役社長 小野瀬 裕也氏

本 社 茨城県常陸大宮市盛金1454
設 立 1973年5月
従 業 員 数 2024年4月1日現在 176名
事 業 概 要 医用機器・分析装置等の精密板金加工および
電子部品の組立



株式会社筑波銀行
大宮支店長 中庭 和美

有限会社盛金製作所
代表取締役社長
小野瀬 裕也氏

筑波総研株式会社
代表取締役社長 木村 伊知郎

お客様に信頼いただける物造り



入社当時の思い出を語る小野瀬社長



インタビュー日/2024年2月29日
〔聞き手：筑波総研株式会社 代表取締役社長 木村伊知郎〕 取引支店：株式会社筑波銀行 大宮支店

3代目社長として社業発展に邁進

社長は1995年に盛金製作所さんへ入社されましたが、その当時の業務内容など、印象に残っていることなどについてお聞かせください。

わたしが入社した1995年当時、創業者の祖父はまだ現役で仕事をしていました。祖父が会社を設立したのは、わたしが生まれる少し前の1973年です。当初は取引先が計測機器を作っている会社でしたので、その部品となるバネ製品を作る仕事が多かったようです。

わたしは幼少期から、本社工場のたくさんの機械とそこで作られた様々な製品に囲まれて過ごしました。そういう環境が自分にとっては普通のことであったため、ごく自然な流れで入社しました。

入社したときには、すでに今のような医用検査機器などの精密な製品づくりを行っていましたが、子どもの頃と変わらずに、良い製品を作り続けているという印象を持ちました。

転機は2代目社長の父が2013年に急死したことです。父からの引き継ぎもなく、心の準備も経営上のノウハウもないまま3代目社長に就任することになりました。それから10年あまり、試行錯誤を続け、社員にも支えられながら、がむしゃらに走り続けてきました。

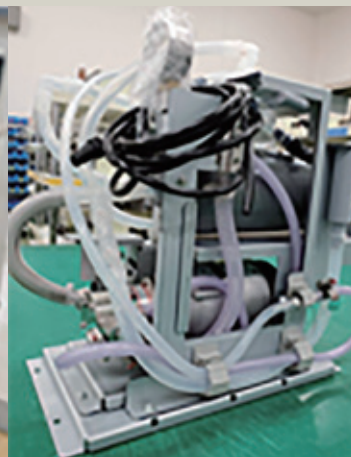
単品から量産まで お客様の多様な要望に応える 製品づくり

御社の現在の事業概要について教えてください。

当社は現在、医用機器・分析装置等の精密板金加工と電子部品の組立を主な事業としており、お客様のあらゆる要望に応えるため、単品から量産まで幅広い製品づくりを行っています。おかげさまでお客様からも高い評価をいただいています。

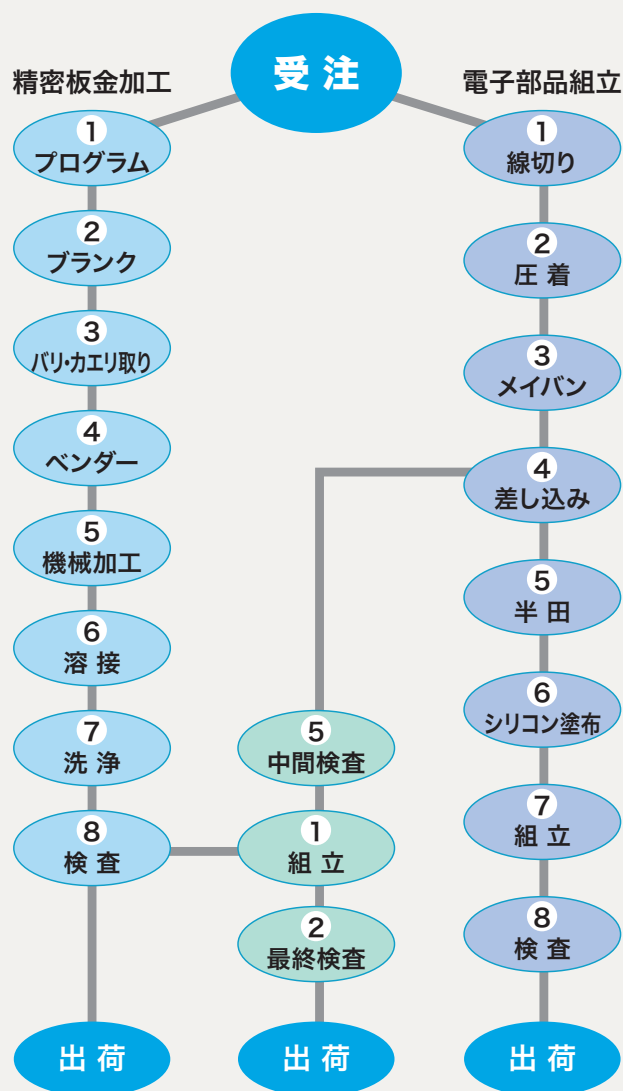
主な製品としては、血液分析装置など医用検査機器やさまざまな分析装置の精密板金製品などが挙げられます。

精密板金加工、電子部品組立は、受注後にそれぞれ決められた工程に沿って行われ、最後に検査を経て出荷されます。(フロー図別掲)



製品例

出荷までの流れ



常陸大宮市に3拠点

御社は現在、本社工場（盛金地区）、山方倉庫（山方地区）、宮の郷工場（宮の郷地区）の3か所にありますが、それぞれの役割について教えてください。

常陸大宮市の盛金地区にある本社工場では、一貫して精密板金製品の製造および組立作業を行っています。山方地区にある山方倉庫は、組立製品で使用する部品の一時的な保管場所として使用しています。数百種類という部品を使用して作る製品もあり、部品が一つ、二つ足りなくても作れなくなってしまうため、在庫管理を徹底しています。

宮の郷工場は本社工場の約3倍の広さがあり、高性能な工作機械を導入し、大型でも高い精度を求められる製品を製造しています。

事業拡大と新事業への挑戦

茨城県が開発した宮の郷工業団地に2015年に進出されていますが、そのキッカケについて教えてください。

事業の拡大に伴い、本社工場が製造拠点として手狭となり、新たな工作機械の導入も難しくなってきました。そこで大型製品向けの工場として宮の郷工業団地に進出しました。

さらに現在、隣接地に新工場を建設しています。これは経済産業省が事業再構築を目指す中小企業等の挑戦を支援する「事業再構築補助金」制度を活用したもので、新規事業として半導体検査用の電子顕微鏡向け精密板金製品の塗装業務に着手する予定です。

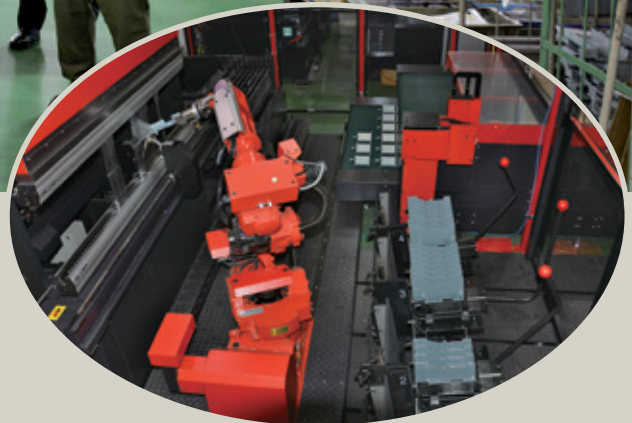
本社工場（盛金地区）

山方倉庫（山方地区）





宮の郷工場を案内する小野瀬社長



曲げ加工を行う工作ロボット

顧客満足度の向上を目指して

医用、分析装置の精密板金部材の加工・組立を主に行っていると聞いていますが、注意している点などについてお聞かせください。

会社理念

1. 安全な作業の為に基本を忠実に守る
2. 不良品の撲滅はもちろん、良品を早く、正確に作る
3. 納品期限・商談日時など、約束は必ず守る

日々の業務は「会社理念」を念頭に行うように、会社全体で徹底しています。

高品質な製品づくりを目指すことはもちろんですが、まずは社員の安全が第一です。そのために、服装や作業手順の順守、勤務時間の適正化など、基本的なルールや手順を忠実に守ることで安全な作業を行うように努めています。

当社が精密板金加工でつくる主な製品は、血液分析装置など医用検査機器として世界中の病院で使用されているものですから、不良品の撲滅を目指して製品づくりを行い、検品も確実に実施しています。当面の目標は不良品の発生率を0.01%以下にすることですが、将来的には0.005%以下にしたいと考えています。

当社の主要なクライアントは茨城県央地区にあります。県内で距離が近いというメリットを活かし、打ち合わせを綿密に行うことや短納期を実現していることで、お客様に安心を提供し、当社の安定した受注につなげています。

大型連休前後などに納品が集中することもあります。が、お客様との約束は必ず守っています。

宮の郷工場の事務所（宮の郷地区）



宮の郷工場の設立が 社員の採用を後押し

現在、人材の確保が製造業に限らず、どの業界でも難しくなっていますが、御社での採用等についてはいかがですか？

宮の郷工業団地に新工場を設立したことにより、立地条件からひたちなか地区、日立地区からも社員が集まるようになったことから、新規採用・中途採用も順調に推移しています。社員の平均年齢は30代前半と若くなり、会社の活力につながっていると思います。

入社した若い社員からは、「わたしたちの製造した製品が病院で使用され、人の命を救うことに役立っていると思うと、とてもやりがいのある仕事」という感想も聞かれ、わたしも当社の業務に誇りを感じています。

品質管理と環境改善を 人材育成の両輪に

人材育成、働き方改革等による労務管理について、どのような取り組みをなさっているのかお聞かせください。

人材育成に関して、まずは入社時に1か月間の研修を実施しています。そこでは、会社理念や就業規則、さまざまな決まりごとなどの基礎的な部分と、当社の技術的な部分を学んでいます。

技術研修で徹底しているのは、製品の製作図面の見方を覚えてもらうことです。当社では多様な精密板金製品を製造していますから、図面を見てどのような手順で作業を行い、製品を完成させるかを理解するこ

とが非常に重要です。一度見方を覚えれば、簡単な図面はもちろんですが、難しい図面でも見られるようになります。最近では工作機械のモニターに作業手順を表示して社員の負担軽減にも努めています。

また、当社では環境マネジメントシステムや品質マネジメントシステムの規格に沿った人材育成にも力を入れています。

当社では2008年、京都議定書発祥の地、京都から発信された環境マネジメントシステムの規格「KESステップ2」の認証を取得しました。この規格の目的は、中小企業等が環境改善活動を継続的に行うことにより社会貢献を実践し、さらには経営力の向上につなごうというのですが、当社においても地域のごみ拾いや板金端材の再利用、こまめな電気の消灯などに取り組み、社員の環境に対する意識の向上を図っています。

2011年には品質マネジメントシステムである「ISO9001:2008」の認証を取得し、2018年には「ISO9001:2015」の認証を取得しました。これらにより社員の品質管理への意識が高まり、会社全体の品質管理体制の構築につながるとともに、お客様からの信頼感の向上にも役立っています。

また、労務管理の一環としてロボットの導入による自動化の推進に取り組んでいます。現在、宮の郷工場に24時間稼働が可能なロボットを抜き加工で2台、ベンダー加工で1台導入しています。2024年の夏には本社工場にも導入する予定です。

日本では、これからさらに人口が減っていくことは明らかです。円安の進行などで、外国の方が日本で働く魅力は薄れていくと思います。働き手は着実に減少していきますから、そういった観点からも、ロボット導入による自動化の推進は避けて通れない選択だと考えています。

生き生きと働く社員の皆さん





KESステップ2 (環境マネジメントシステム・スタンダード) 認証取得



働きやすい制度・環境づくり

社員に対する福利厚生などはどのようにされていますか？

手厚い福利厚生を目指して、住宅手当や家族手当、通勤手当、皆勤手当などを支給しています。また、社員に健康で安心して働いてもらうために、健康診断やインフルエンザ予防接種の費用負担をしています。昼食に会社経由でお弁当を注文した社員に対する代金の一部負担もしています。

さらに、売り上げの伸長に貢献したり、特殊な製品製造に成功するなど、目に見える成果を挙げた社員に加給を行うことで、仕事に対するモチベーションアップにもつなげています。

仕事以外でも、忘年会やゴルフコンペなどの季節行事を定期的に行い、社員同士の親睦を図っています。

職場環境の面では、個人ロッカーや制服・安全靴の支給、適切な空調管理、休憩所の設置など働きやすい環境づくりに努めています。



社員による環境活動

理想の企業経営に向けてチャレンジ

会社の設立が1973年ということで、50年を超えて、これから100年企業としての企業の展望についてお聞かせください。

技術は常に進歩しており、現状で満足したらすぐに置いていかれてしまいます。そのため、日々進化する新しい技術を取り入れ、社員一丸となって製品づくりに励んでいくことが大切だと考えています。

また、当社の強みの一つは、ベテラン社員が長年積み重ねてきた熟練の技術です。そうした匠の技といえる技術とスピードや生産性で勝るロボットとの融合を図ることで、これまで他社では作れないような製品を生み出してきました。

社長就任から約10年が経ちました。まだまだやりたいことの2割、3割しかできていないというのが正直な気持ちです。まだ理想にはほど遠いですが、これからも理想の企業経営に向けてチャレンジしていきたいと考えています。



ISO9001:2015 認証取得



創立50周年記念イベントの様子

